

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300042		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム 桂葉		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉等多数の事業所の運営を通じ、グループホーム桂葉は高清水を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境の出来るよう支援しております。グループホーム桂葉の運営理念「私たちは、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしながら、暖かい環境創りを目指します。」を基に職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桂葉の前には田園風景が広がり四季が感じられる。敷地内には特養、通所介護、障害者福祉サービス事業所があり、(社福)豊明会では、2016年1月、新たに障害児施設を開設し、多様なかわりを模索している。職員は事業所理念を念頭に、利用者の自立を支援し、思いや願いを大切にケアを行い、利用者が穏やかに安心して過ごせる環境を整えている。利用者は食事の準備や洗濯物たたみなどを行い、家庭と同じ生活が営めるように配慮している。広く地域にお便りを配布して、活動の様子を伝え、法人主催の夏祭りで地域住民と一緒に楽しむことで、地域とのつながりを深め、協力を得やすい環境づくりを行っている。今年度から看護師が常駐し健康管理を行い、協力医療機関との24時間連絡体制を整えたことが利用者や家族、職員の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「 ユニット名 蔵王 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所での経営理念「私たちは、アットホームな環境を整える為、地域の皆様方と共に過ごしながらかい家創りをめざします。」を職員が意識して実践に繋げていけるように努めています。	職員で作成した事業所理念を入職時や会議などで確認するとともに、事務室前に掲示し、常に意識してケアに努めている。家族のような温かさを大切にし、なおかつ節度をわきまえ声掛けや対応などに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	豊明会の夏祭りに地域の方々も参加頂いたり、高清水地域の敬老会、運動会、生涯学習まつりにも参加し交流はできている。これからも、地域の皆様方と沢山交流していくように努めていく。	区長との連携がとれ、事業所の広報誌を地域に配布している。法人の夏祭りで地域住民と共に芸能人の歌や花火を楽しみ、小学校の運動会や学芸会、地区の文化祭などに参加している。利用者家族がボランティアで踊りや歌を披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座やキャラバンメイトの養成講座を修了している職員もおり、地域の方への理解や支援を地域包括センターの方々と共に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、取り組み等の報告をしている。会議では出された意見等については、参考にさせて頂き、サービスに活かすように努力している。	区長、市・地域包括職員、家族代表、民生委員が参加し年6回開催している。入居者の状態や活動を報告し、区長からの地域行事案内など情報交流し、家族からの要望等を検討し実践に努めた。地域包括職員からヒヤリハット事例の報告の依頼があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員にも、運営推進会議に毎回参加して頂いていると共に、連絡事項等発生した場合等には速やかに連絡調整行っている。	市職員が運営推進会議に参加し、ホームの状況を把握し、研修や介護保険に関わる情報を提供し、制度改正による疑問点等の相談を受けている。地域包括からの認知症サポーター研修にユニットリーダーを派遣する等協力・連携体制が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や身体拘束についての話し合いを持ち、身体拘束についての全職員が内容を理解するように努めている。ご利用者様並びにご家族様に対しては、身体拘束への弊害について理解していただいている。	身体拘束について内部研修で理解を深め、また外出傾向を把握し、気分転換ができるように配慮している。地域に事業所の広報誌を配布していることで住民からの理解と協力を得ている。玄関やユニット入口にセンサーを設置し、夜間は1時間ごとに巡視する等改善した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、内部研修等で内容の理解を図っている。日常生活で関わりの中でも虐待等が起きないように十分に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員より、内部研修にて伝達を行い、内容の理解ができるように努めている。今後も外部研修においては積極的に参加できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には十分な説明を行っている。更に不安や疑問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を通し、意見や思いを話す機会を設けている。また、面会に来られた際にも意見や要望を伺い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議、面会や電話などで家族の意見や要望を聞き、運営に活かしている。職員の写真や名前を玄関に掲げたり、センサーを設置したりし、家族からの要望に応じた。引き継ぎノートを活用し職員の共通理解に努めている。契約時に第三者委員についても知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やユニット会議を毎月開催し、意見や思いを提案しやすい環境を整えている。日頃から、職員間で話し合い、実践するか否か検討しサービスの向上に努めている。	毎月のユニット会議や全体会議時、また常時、職員の意見や要望を聞いている。年2回職員面談があり、パーソナルレポートに課題や目標を掲げ取り組みと成果を確認している。外部研修参加や資格取得の支援を行っている。	職員間の日常のコミュニケーションや管理者への報告・連絡・相談などを一層細やかに行う取組みを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の職員面談により、職員個々の努力や勤務状況を把握し、職場の環境条件向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験・能力に応じて、研修等の機会を計画し、職員の育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連医療法人の事業所との連携会議に参加するなど、情報の共有を図っている。また、毎月職員の中から外部研修に参加し、同業者との意見を交わし職員間での情報共有やケアの実践に繋げる事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様の意向確認や家族様からの状況を確認し、入居後も出来る限り不安が解消されるように環境整備、話しやすい、安心して頂けるような雰囲気、声掛けを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対する不安や質問があった際は家族様が納得できるよう説明する機会を設けることができている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を重ねながら、本人や家族様の思い、状況等を確認し、その方が合ったサービスを受けることが出来る方法を考えられている。また、他のサービス機関への連絡調整についても行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力を見極め、日々の役割を持ち、出来ることの喜びを感じることで環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を面会時や電話連絡に伝える等し、家族様の協力が必要とする際は、協力が得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て、定期的に外出しており、自宅に帰れば近所付き合いも出来ており関係が途切れない継続した支援が出来ている。地域の敬老会や、お茶飲み会、神社のお祭りにも参加をしている。	家族の面会は、ほぼ月に1回あり、親戚、近所の人、知人などの面会もある。友人からハガキが届き、関係が途切れないように支援している。地域の敬老会や祭り、近くの神社(初詣)、伊豆沼、スーパーなどに出掛けている。墓参りなどは家族と出掛けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が出来るだけ、ご利用者同士が共に過ごせる環境作りをすることで、孤立などをしないよう努めている。また、ご利用者の意向をききながら楽しく関わられるよう対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じ、対応している。他施設や病院へ移る必要がある場合でも、十分な説明を行い、事前に情報提供もを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の動作や日常会話の中から意向や希望を引き出せるように努めている。更に家族様の意見を聞き、本人の意向に沿った対応を行っている。	利用者との会話や家族からの聞き取りで、一人ひとりの思いや願いを把握し、生活歴や職歴などを踏まえ支援している。利用者同士の会話から思いが解ることもあり、普段から声掛けし様子を把握するように努めている。得た情報はユニット会議などで共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取りの情報を基にし、入所後、ご家族、親せき等面会時に話を伺ったりし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状態や出来る事を把握している。カンファレンス等において、職員と話し合い役割、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回、モニタリングを実施し、利用者様の希望や必要である事を確認している。又、家族の思いも含め、現状に即した介護計画の作成しケアしている。	本人、家族、医師の意向や意見を取り入れた介護計画を作成し、半年に1回モニタリングを行い、介護計画を見直している。健康状態に変化があった際にはその都度見直し、薬剤による状態の悪化を医師に提案し改善した例もあった。家族に介護計画の説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等個人のケース記録に記録している。職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる一人一人のニーズに出来るだけ対応し、状況に合わせた支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や地域の方々に情報を頂き、出来る限り活用できるようにしている。又、地域の消防と連携し、年2回の避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療担当が中心となり、協力医療機関のかかりつけ医の回診を週1回受け、状態の報告をしている。又、利用者様の体調不良時や急変等24時間体制で連絡、指示を頂き対応することが出来ている。	週に1回、協力医療機関が訪問診療し、24時間医療連携している。検査等必要な時は、病院で受診する。家族付き添いで専門医受診の際は、文書と口頭で情報を提供し、受診結果を共有している。看護兼介護を行う看護師が常駐し、安心感が増している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐している為、利用者様の体調の管理、協力医の相談等連携を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員が協力し、医療機関、医師との相談を行い早急に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての説明については、協力医のDrと連携し行っている。	食事がとれなくなった時には、協力医の診断のもと入院などの対応をしている。法人が特養ホームなど各種事業所を運営していることで、利用者や家族の希望にそった終末期を迎えることができる。看取りの実績はないが、家族の希望があれば指針や体制の整備を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて応急処置の対応を行えるようマニュアルを備え付け、職員が確認できるようにしている。又、救命講習を受講し、実践的な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、職員一人一人が確認できるようにしている。又、災害時は同敷地内の特養に協力要請を行っている。	夜間想定を含め年2回、うち1回は消防署員立会いで避難訓練を行っている。区長や敷地内の特養ホームにも協力要請している。内部研修で災害時マニュアルを再確認し、緊急連絡体制も整備した。自動通報装置になり、近隣の特養や登録先に一斉に通報できるように改善した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーに配慮し、言葉遣い、態度に十分気を付けて接している。	接遇やプライバシー保護について内部研修を行い、節度ある言葉遣いを心掛けている。ホール内や広報誌に掲載する写真などは、本人や家族の了解を得ている。排泄介助はさりげなく居室やトイレに誘導する。呼び名は、本人や家族に確認し希望にそった呼び方にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望を表せるような環境作りをするよう努めている。自ら選択できるような場面を作れるよう配慮し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人一人に合った生活のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にその人らしい身だしなみが出来ている。又、外出時や行事の際は職員と衣類を選んだりおしゃれが出来るよう支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備や片づけを行っている。食事が楽しみになる様、誕生日や行事食等嗜好を確認し献立に活かしている。	献立は法人管理栄養士が作成し、食材購入は業者に依頼している。利用者は出来る範囲で、食事の準備や後片付けなどを行っている。個々に応じて、おかゆやミキサー食、栄養補助食品などで対応し食事介助もしている。行事食や焼き芋パーティー、外食などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成している。管理栄養士に助言を頂きながら栄養の取れたバランスの良い食事提供を行っている。又、利用者様の状態に合わせて量を調節したり代替品を提供したり、嚥下状態に合わせて食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る限り自力で行えるよう声掛け、見守りしている。出来ないところを支援するようにしている。又、口腔状態の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録を残し、排泄パターンを把握することが出来ている。利用者様の残存機能を活かし見守りし、出来ない部分を支援している。	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレへの誘導や個別の対応している。日中は、ほぼ自立できるよう支援し、夜間は1、2時間ごとに見回り、誘導の必要な方には声掛け、介助している。下剤を使用する場合には、医師に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記入にて排便確認も行っている。腹部マッサージや朝のトイレ誘導にて排便確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、利用者様の希望に沿って入浴を実施している。入浴拒否のある利用者様に関しては時間をずらしたり職員を代えて声掛けし入って入って頂けるよう環境を整えている。	週2、3回、午前と午後に入浴支援を行い、湯温は好みに合わせている。触られるのがいやな方には、職員の声掛けで自分で着脱を行ってもらうなど配慮している。入浴拒否の方には職員や時間・曜日を変更するなど対応している。入浴剤を活用し楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活のリズムを整え、日中の活動量等把握を行い、休息し安心して寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は職員が行っている。名前と日付を確認し提供し、飲み終えるまで確認している。又、用法や用量についても理解できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が役割や日課、趣味活動を楽しく行えるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	天候、体調面に考慮しながら近所への散歩、外出の計画をし出かけている。利用者様、家族の希望にて外出することが出来ている。	日常的には散歩などで気分転換を図っている。天気や職員配置のタイミングを見計らい、お花見やコスモス園、鳴子の紅葉などに出掛けている。小学校の運動会や学芸会、文化祭、スーパーなどに出掛け楽しんでいる。買い物や自宅訪問など、個別対応することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や外出時の支払いはご本人の目の前だったり利用者様が支払いできるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望があった際はその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットホール内は季節感が感じられるような装飾等で対応している。生活感をだし居心地よく過ごせるよう配慮している。	共用空間は広く、明るい。エアコンや加湿器などで温度や湿度を適切に管理している。テーブルは利用者の状態に合わせ、高さが調節でき、座席配置にも配慮している。時計やカレンダー、行事や外出先の写真が貼られ、楽しい雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、和室にソファを置いており、景色をみたり落ち着いて過ごせるよう配慮している。ホールにテレビを置き気の合う利用者様同士過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での愛用品をもってきて頂き使用し居心地よく生活できるよう配慮している。	居室には、ベッド、クローゼット、ナースコール、エアコン、加湿器が完備されている。居室前には花の名が記され、自分の部屋が認識できる。それぞれがダンス、テレビ、テーブル、椅子、家族写真などを持ち込み、居心地良く穏やかに暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせ、家具、家電の配置を行っている。安全な環境配備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300042		
法人名	社会福祉法人豊明会		
事業所名	グループホーム桂葉		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉等多数の事業所の運営を通じ、グループホーム桂葉は高清水を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境の出来るよう支援しております。グループホーム桂葉の運営理念「私たちは、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしながら、暖かい環境創りを目指します。」を基に職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桂葉の前には田園風景が広がり四季が感じられる。敷地内には特養、通所介護、障害者福祉サービス事業所があり、(社福)豊明会では、2016年1月、新たに障害児施設を開設し、多様なかわりを模索している。職員は事業所理念を念頭に、利用者の自立を支援し、思いや願いを大切にケアを行い、利用者が穏やかに安心して過ごせる環境を整えている。利用者は食事の準備や洗濯物たたみなどを行い、家庭と同じ生活が営めるように配慮している。広く地域にお便りを配布して、活動の様子を伝え、法人主催の夏祭りで地域住民と一緒に楽しむことで、地域とのつながりを深め、協力を得やすい環境づくりを行っている。今年度から看護師が常駐し健康管理を行い、協力医療機関との24時間連絡体制を整えたことが利用者や家族、職員の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「 ユニット名 栗駒 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所にグループホーム桂葉の基本理念を掲示し、又、内部研修で理念とは何かを研修、確認し実践できるようにしている、	職員で作成した事業所理念を入職時や会議などで確認するとともに、事務室前に掲示し、常に意識してケアに努めている。家族のような温かさを大切にし、なおかつ節度をわきまえ声掛けや対応などに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への敬老会、文化祭、学芸会への招待を受け、参加している。法人全体で行う夏祭りへの地域の方の参加で交流が図れている。	区長との連携がとれ、事業所の広報誌を地域に配布している。法人の夏祭り地域住民と共に芸能人の歌や花火を楽しみ、小学校の運動会や学芸会、地区の文化祭などに参加している。利用者家族がボランティアで踊りや歌を披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症サポーター養成講座を受け、地域へ講師として派遣している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回グループホームでの取り組み等の報告をしている。会議にて家族からの要望等を話し合い、運営に組み入れている。	区長、市・地域包括職員、家族代表、民生委員が参加し年6回開催している。入居者の状態や活動を報告し、区長からの地域行事案内など情報交流し、家族からの要望等を検討し実践に努めた。地域包括職員からヒヤリハット事例の報告の依頼があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方にも運営推進会議に参加して頂いている。又、生活保護を受けている利用者様の報告等を栗原市に行っている。	市職員が運営推進会議に参加し、ホームの状況を把握し、研修や介護保険に関わる情報を提供し、制度改正による疑問点等の相談を受けている。地域包括からの認知症サポーター研修にユニットリーダーを派遣する等協力・連携体制が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施にて職員の理解を高めている。又、マニュアルの提示を行い、確認している。日中、玄関の施錠はおこなっていない。訴え時はその都度対応している。	身体拘束について内部研修で理解を深め、また外出傾向を把握し、気分転換ができるように配慮している。地域に事業所の広報誌を配布していることで住民からの理解と協力を得ている。玄関やユニット入口にセンサーを設置し、夜間は1時間ごとに巡視する等改善した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や実際にあった内容を基に研修を実施し職員の理解を高めている。日常生活の中で態度、言葉遣い等十分気を付け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修時に権利擁護について確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安等はないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット会議、スタッフ全体会議を毎月実施し家族の要望、外部からの要望等を話し合い、改善に努めている。	運営推進会議、面会や電話などで家族の意見や要望を聞き、運営に活かしている。職員の写真や名前を玄関に掲げたり、センサーを設置したりし、家族からの要望に応じた。引き継ぎノートを活用し職員の共通理解に努めている。契約時に第三者委員についても知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、スタッフ全体会議を毎月実施し家族の要望、外部からの要望等を話し合い、改善に努めている。	毎月のユニット会議や全体会議時、また常時、職員の意見や要望を聞いている。年2回職員面談があり、パーソナルレポートに課題や目標を掲げ取り組みと成果を確認している。外部研修参加や資格取得の支援を行っている。	職員間の日常のコミュニケーションや管理者への報告・連絡・相談などを一層細やかにを行う取組みを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談により、職員の個々の努力、勤務状況、職場環境についてどうか管理者と話し合い、条件の向上、職員の意見、提案に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験、能力に応じて、外部研修、内部研修の機会を計画し、職員の育成を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の関連医療法人の事業所との連携会議を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、本人、家族が不安な事や要望等に耳を傾けている。又、入所後も安心して生活ができるよう話を傾聴、確認をしなんでも相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、入所後の面会や電話連絡時等、家族の不安な事、要望等に耳を傾け、改善していく様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族の状況、思いや要望等を確認し、その方に合ったサービスを受ける方法を考えている。又、他のサービス利用も含めた対応についてはサービス機関へ相談調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に清掃や、食事の準備の手伝い等を行い、生活を共にし関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活の様子を面会時や電話連絡時に伝えている。 家族、本人の外出、外泊の希望があった際は家族の協力を得る事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人と手紙のやり取りや面会を行っている。友人等これまでの関係が途切れないように支援に努めている。	家族の面会は、ほぼ月に1回あり、親戚、近所の人、知人などの面会もある。友人からハガキが届き、関係が途切れないように支援している。地域の敬老会や祭り、近くの神社(初詣)、伊豆沼、スーパーなどに出掛けている。墓参りなどは家族と出掛けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動に気の合う利用者様同士が過ごせる環境作りをしている。利用者様の意向を確認しながら支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用終了後についても相談に応じ、これまでの関係性を大切にしている。他施設、病院へ移る必要がある際は自前に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いや希望を引き出すようにしている。理解力、発言力の低下がある方には表情、行動等の中から本人の意向を受け取るようにしている。	利用者との会話や家族からの聞き取りで、一人ひとりの思いや願いを把握し、生活歴や職歴などを踏まえ支援している。利用者同士の会話から思いが解ることもあり、普段から声掛けし様子を把握するように努めている。得た情報はユニット会議などで共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査にて聞き取りを行い、それを基に、家族の面会時に話を伺ったり本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、利用者一人一人の状態等把握している。カンファレンス等においても、職員と話し合い、役割を持ち生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回モニタリングを行い、利用者の希望や必要であることを確認している。又、家族の思い等を含め、現状に即した介護計画を作成する様に努めている。	本人、家族、医師の意向や意見を取り入れた介護計画を作成し、半年に1回モニタリングを行い、介護計画を見直している。健康状態に変化があった際にはその都度見直し、薬剤による状態の悪化を医師に提案し改善した例もあった。家族に介護計画の説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個人のケース記録、共同生活日誌へ記録している。又、職員同士で情報共有をし、ケアの実践や介護計画の見直しに生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のニーズに合った対応をし、柔軟に対応できるよう、状況に合わせ支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や、地域の方々の情報を頂き活用する様に努めている。また、地域の消防署と連携し、年2回避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の回診を週1回実施し健康状態の把握に努めている。利用者様の体調不良、急変時等には24時間体制で連絡、指示を頂き対応している。	週に1回、協力医療機関が訪問診療し、24時間医療連携している。検査等必要な時は、病院で受診する。家族付き添いで専門医受診の際は、文書と口頭で情報を提供し、受診結果を共有している。看護兼介護を行う看護師が常駐し、安心感が増している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐し、利用者様の体調の管理、協力医への相談、受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員が協力し医療機関者と相談し、情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期における説明は協力医と連携し行っている。	食事がとれなくなった時には、協力医の診断のもと入院などの対応をしている。法人が特養ホームなど各種事業所を運営していることで、利用者や家族の希望にそった終末期を迎えることができる。看取りの実績はないが、家族の希望があれば指針や体制の整備を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて救命講習を受講し、実践できるようにしている。又、応急処置を行えるよう、マニュアルを設置し内容を把握し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル、内部研修の実施にて職員一人一人が把握、確認できるようにしている。災害時は近隣の施設に協力要請を行っている。	夜間想定を含め年2回、うち1回は消防署員立会いで避難訓練を行っている。区長や敷地内の特養ホームにも協力要請している。内部研修で災害時マニュアルを再確認し、緊急連絡体制も整備した。自動通報装置になり、近隣の特養や登録先に一斉に通報できるように改善した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人のプライバシーに配慮し、人生の先輩として尊厳を重視している。	接遇やプライバシー保護について内部研修を行い、節度ある言葉遣いを心掛けている。ホール内や広報誌に掲載する写真などは、本人や家族の了解を得ている。排泄介助はさりげなく居室やトイレに誘導する。呼び名は、本人や家族に確認し希望にそった呼び方にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思いや、希望を出せるような環境作り、自ら選択できるような場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活、自分のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみに整えている。外出、行事がある際は職員と一緒に衣類を選んだりしおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。利用者様の嗜好確認を行い、行事等で好きなものが摂取できるよう努めている。	献立は法人管理栄養士が作成し、食材購入は業者に依頼している。利用者は出来る範囲で、食事の準備や後片付けなどを行っている。個々に応じて、おかゆやミキサー食、栄養補助食品などで対応し食事介助もしている。行事食や焼き芋パーティー、外食などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が献立作成を行い、管理栄養士に相談しながら栄養のバランスの良い食事提供を行っている。利用者様の喫食状態に合わせ食事形態、量の調節をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに努めている。終了後、口腔内の確認をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを確認している。又、利用者様に合わせたパッドの使用、排泄の声掛け、支援をしている。	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレへの誘導や個別の対応している。日中は、ほぼ自立できるよう支援し、夜間は1、2時間ごとに見回り、誘導の必要な方には声掛け、介助している。下剤を使用する場合には、医師に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	余暇活動での体操や水分強化等で便秘防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、利用者様に合わせ、入浴の声掛け、提供を行っている。入浴拒否がある方は声掛けの工夫、タイミング等に配慮し対応している。	週2、3回、午前と午後に入浴支援を行い、湯温は好みに合わせている。触られるのがいやな方には、職員の声掛けで自分で着脱を行ってもらうなど配慮している。入浴拒否の方には職員や時間・曜日を変更するなど対応している。入浴剤を活用し楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムの確認を行い、休みたいときは休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時は、名前、日付の確認を行い飲み終えるまで確認している。用法、用量は協力医に相談し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や、趣味活動で楽しみごと、役割をもって生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節、天候に応じて出かけられるよう支援している。利用者様の希望に沿いながら、活動担当が計画し実施している。	日常的には散歩などで気分転換を図っている。天気や職員配置のタイミングを見計らい、お花見やコスモス園、鳴子の紅葉などに出掛けている。小学校の運動会や学芸会、文化祭、スーパーなどに出掛け楽しんでいる。買い物や自宅訪問など、個別対応することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時や外出時の買い物の際は利用者様本人に確認し支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡希望の訴えは聞かれていないがはがきのやり取り等行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットホール内は季節を意識した装飾や写真の掲示をしている。利用者にとって不快がなく過ごせるよう配慮している。	共用空間は広く、明るい。エアコンや加湿器などで温度や湿度を適切に管理している。テーブルは利用者の状態に合わせ、高さが調節でき、座席配置にも配慮している。時計やカレンダー、行事や外出先の写真が貼られ、楽しい雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にテレビを配置することで気の合う利用者同士テレビを観たり、横になったりと思いきいに過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は自宅で使用していた物を持ってきて頂いたり、ご家族に準備して頂くことで居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、ベッド、クローゼット、ナースコール、エアコン、加湿器が完備されている。居室前には花の名が記され、自分の部屋が認識できる。それぞれがタンス、テレビ、テーブル、椅子、家族写真などを持ち込み、居心地良く穏やかに暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の生活状況に合わせ、家具、家電の配置を行っている。居室、浴室、トイレの表示を行う事で出来る事を活かせるよう工夫している。		